

各 位

病虫害防除所長

平成18年度病虫害発生予察技術情報資料第6号(普通期稲葉いもち)について

本病については、高知県版BLASTAMにおいて、6月5半旬から6半旬にかけて感染好適条件が出現したことから、平成18年7月5日付け18高虫防第48号技術情報資料(第5号)により情報提供をしたところです。

通常、感染好適条件が出現してから約1週間～10日後に広域に葉いもちの初発生が認められるようになり(全般的初発生時期)、さらにその約1週間～10日後に発病が増加し始めます(発病増加開始期)。

感染好適条件は、7月に入ってから中山間地域を中心に出現しています(表1)。また、県中央部・中西部の普通期稲では、発生面積は少ないものの平年に比べ程度が高く、ずりこみも散見されており(表2)、さらに、普通期稲の防除適期決定ほでは、平成16年以降で最も高い発病株率になっています(表3)。

以上から、箱施用剤等を処理したほ場でも薬剤の効果が切れる時期であり被害の拡大が懸念されますので、早めに薬剤散布等防除対策を行うように指導をお願いします。

なお、防除の際には、周辺作物への飛散防止に配慮するように併せて指導をお願いします。

表1 高知県版BLASTAMによる7月上中旬のいもち病感染好適条件の判定結果

日付	本 川	本 山	大 柄	高 知	後 免	安 芸	禰 原	須 崎	窪 川	室 戸 岬	江 川 崎	佐 賀	宿 毛	中 村	清 水
7月1日	●	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7月2日	—	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7月3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7月4日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7月5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7月6日	●	—	—	3	2	2	—	2	—	—	—	—	—	—	—
7月7日	—	—	—	—	2	—	●	2	●	—	2	—	—	—	—
7月8日	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7月9日	—	●	—	—	—	—	—	2	●	—	2	●	—	2	3
7月10日	—	●	—	—	—	—	—	—	●	—	—	●	—	3	—
7月11日	—	—	●	—	—	—	●	3	—	—	3	3	—	3	—
7月12日	●	—	●	3	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7月13日	●	●	—	3	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

<用語説明>

好適条件(●)：

葉面湿潤条件が充分で、湿潤時間中の平均気温が15～25℃、前5日間の平均気温が20～25℃であり、葉いもちの大量感染に好適な気象条件が出現した場合。

準好適条件(1～4)：

葉面湿潤時間は充分であるが、その他の条件が一部不足している場合。これが続いても発病が始まるので注意が必要。

- 1：前5日間の平均気温は19度未満だが、湿潤時間は条件を満たす。
- 2：前5日間の平均気温は25度を超えているが、湿潤時間は条件を満たす。
- 3：湿潤時間中の平均気温は15～25度でないが、湿潤時間は条件を満たす。
- 4：湿潤時間中の平均気温は15～25度で、湿潤時間がやや不足。

＊移植20日後程度までの好適条件の出現は、いもち病菌の感染に無効であり、BLASTAMの適用開始時期はそれ以降とする。

表2 県中央部・中西部の普通期稲における7月3半旬期の葉いもち発生程度別面積(ha)

	甚	多	中	少	計
本年	7.0	35.4	106.1	89.6	238.1
平年	0.2	21.0	67.9	455.2	544.3

表3 普通期稲の防除適期決定ほにおける葉いもちの発病株率(%)

	平成18年	平成17年	平成16年
6／上	0	0	0
6／中	0	0	0
6／下	8	0	0
7／上	100	12	8
7／中	100	0	12